

～京阪奈新書～

『奈良の太平洋戦争』

著者 久門たつお

発行 京阪奈情報教育出版（株）

I. 空襲

II. 文化財
疎開

III. 戦跡

IV. 原爆

V. 戦争・平和

日本人の死者数

資料 厚生労働省

<海外>

軍人・軍属	2 1 0 万人
一般人	3 0 万人
計	2 4 0 万人

<国内>

軍人・軍属	2 0 万人
一般人	5 0 万人
計	7 0 万人

総計 3 1 0 万人

※ <海外> <国内> 合計で
軍人・軍属 2 3 0 万人
一般人 8 0 万人

第2次世界大戦の主な国の死者数

資料 彩流社刊
『戦争のうしろ姿』

		軍人	市民	合計
【連合国側】	アメリカ	29万	---	29万
	イギリス	14万	24万	38万
	フランス	20万	40万	60万
	ソ連	1200万	1500万	2700万
	中国	380万	1800万	2180万
【三国同盟側】	日本	230万	80万	310万
	ドイツ	422万	257万	689万
	イタリア	30万	13万	43万

太平洋戦争時の年別の日本人死者数

1941年	1～2万人	開戦からほぼ1カ月
42年	5～10万人	まだ海外の前線への食糧・武器補給網は生きていた
43年	30～50万人	補給網が機能せず飢餓・病死が急増
44年	120～150万人	サイパン島、グアム島の守備隊全滅などで日本人戦死者の半数を占める
45年	120～150万人	東京大空襲、沖縄戦、広島・長崎への原爆などで民間人死者の大半集中

奈良県出身の戦没者

2万9245柱

= 奈良県護国神社（奈良市古市町）に祀られている明治維新以来、太平洋戦争までに戦死した県出身の軍人・軍属、従軍看護師

約2万6000人

= 日中全面戦争が始まった1937年（昭和12年）～太平洋戦争が終わった45年（昭和20年）の戦死者



奈良県護国神社に建立されている戦没者慰霊塔

太平洋戦争 「奈良空襲」 までの流れ

- 1941年12月 日本軍、米ハワイ・真珠湾奇襲攻撃
- 42年6月 ミッドウェー海戦で空母4隻失う大敗、制海権・制空権に打撃
- 44年7月 太平洋マリアナ諸島のサイパン島
日本軍守備隊が米軍に敗退、制海権・制空権失う
- 〃年11月 マリアナ諸島から飛来のB29が東京初空襲
- 45年3月 10日、東京大空襲
13日深夜から14日未明、第1次大阪大空襲
- 〃年6月 1日、第2次大阪大空襲
奈良市法蓮町・法華寺町で初の焼夷弾空襲、死者1人
15日、第4次大阪大空襲
田原本町満田で2回目の焼夷弾空襲、死者4人
- 〃年6月～8月 県内各地で機銃掃射空襲、死者多数

空襲<<1>> 1945年6月1日、奈良市で県内初の焼夷弾空襲、法蓮町で女兒死亡（初の空襲死者）



奈良県内初の焼夷弾空襲で店舗兼住宅（車の左側と奥）が全焼し、女兒が死亡した＝奈良市法蓮町



店舗兼住宅近くの道路沿いに設けられたお地蔵さん。今も住民たちが世話をしている

空襲<<1>> 同じ日、法華寺町でも焼夷弾で寺院・民家が火災
塀が焼けた見光寺は法華寺すぐ近く



「戦争中、このブロック塀は木製で、焼夷弾を受けて焼けました」と語る見光寺の日首住職



ブロック塀を東から西方向を撮影。西の大阪方面から手前の東方向にB29は飛来したとみられる。

空襲<< 1 >>別

6月1日、天川村・山上ヶ岳東側斜面に B29が墜落、乗員7人死亡、4人生存

墜落から62年後の2007年、天川村は墜落現場の谷に放置されていたB29のエンジン1基をヘリコプターを使っていた回収。1基は18気筒・2200馬力で、機体に4基搭載。村立資料館で戦争遺産として展示している。



天川村立資料館のB29コーナーに掲示されている「飛行中のB-29」

空襲<< 2 >> 6月15日、田原本町満田でも焼夷弾空襲 乳児含む4人死亡、33戸全半焼



田原本町満田地区を南側から望む。焼夷弾投下のB29は第4次大阪大空襲を終え帰路の途中だった



満田地区の中央エリア。焼夷弾空襲で多くの建物が火災に見舞われたという

空襲<< 3 >>

7月24日、宇陀市の近鉄榛原駅近くで列車に機銃掃射、死者11人、重軽傷者27人（県内空襲で最大）

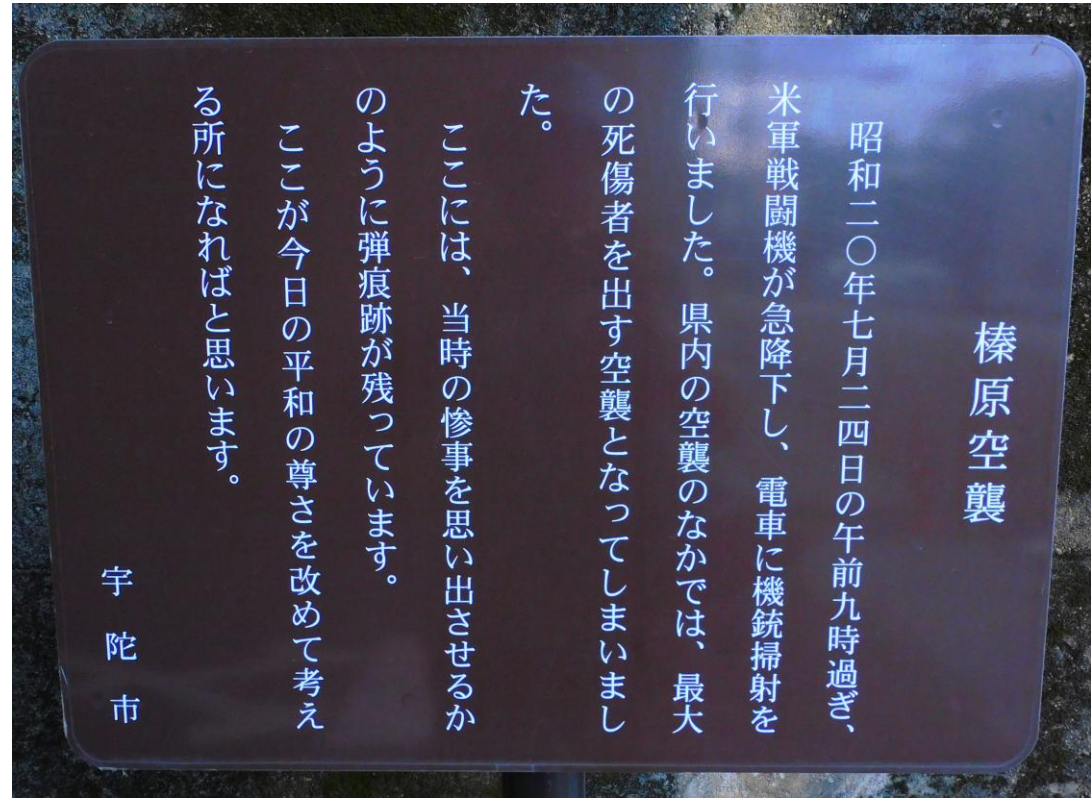


高架の近鉄大阪線の下を横切る道路のコンクリート壁に機銃掃射の弾痕が今も生々しく残る



線路と横切る道路の位置関係は戦争当時と変わらない。車両はこのような状況で襲撃されたらしい

空襲<< 3 >>宇陀市遺族会の要望で「榛原空襲」説明板 戦後70年の2015年に宇陀市が設置



高架下を横切る道路のコンクリート壁に今も残る機銃掃射の弾痕。一部で劣化が進む

戦後70年の2015年に宇陀市が設置した「榛原空襲」の説明板

空襲<<4>>

8月8日、五條市の北宇智駅、国民学校など3カ所
機銃掃射で計13人死亡、44人重軽傷



列車が機銃掃射を受け乗員・乗客計9人が死亡、
39人が重軽傷を負った北宇智駅



北宇智国民学校（現・五條市立ゆめこども園）への
機銃掃射などで教諭・児童の3人死亡、4人重軽傷

奈良県内の主な空襲

(いずれも1945年)

- 6・1 奈良市法蓮町・法華寺町
焼夷弾で死者1人、負傷者2人
3棟全焼
- 6・15 田原本町満田
焼夷弾で死者4人、負傷者1人
33棟全半焼
- 7・14 王寺町の新王寺駅付近
機銃掃射で死者2人
- 7・24 宇陀市の榛原駅東近くの近鉄線
列車に機銃掃射、
死者11人、負傷者27人
- 7・30 大和郡山市片桐地区で機銃掃射
死者2人、負傷者1人
- 8・8 五條市の北宇智駅の列車、北宇智
国民学校など3カ所で機銃掃射
死者13人、負傷者44人
- 〃 香芝市北今市などで機銃掃射
死者2人

※この他に6月～8月に桜井市、明日香村、河合町、大和高田市、橿原市
でいずれも機銃掃射で死者1人

太平洋戦争とお水取り<上>

【1944年】練行衆3人に召集令状 懸命のカバーで満行達成



お水取りのお松明最終日に詰めかけた見物人でにぎわう二月堂前（2025年3月14日）



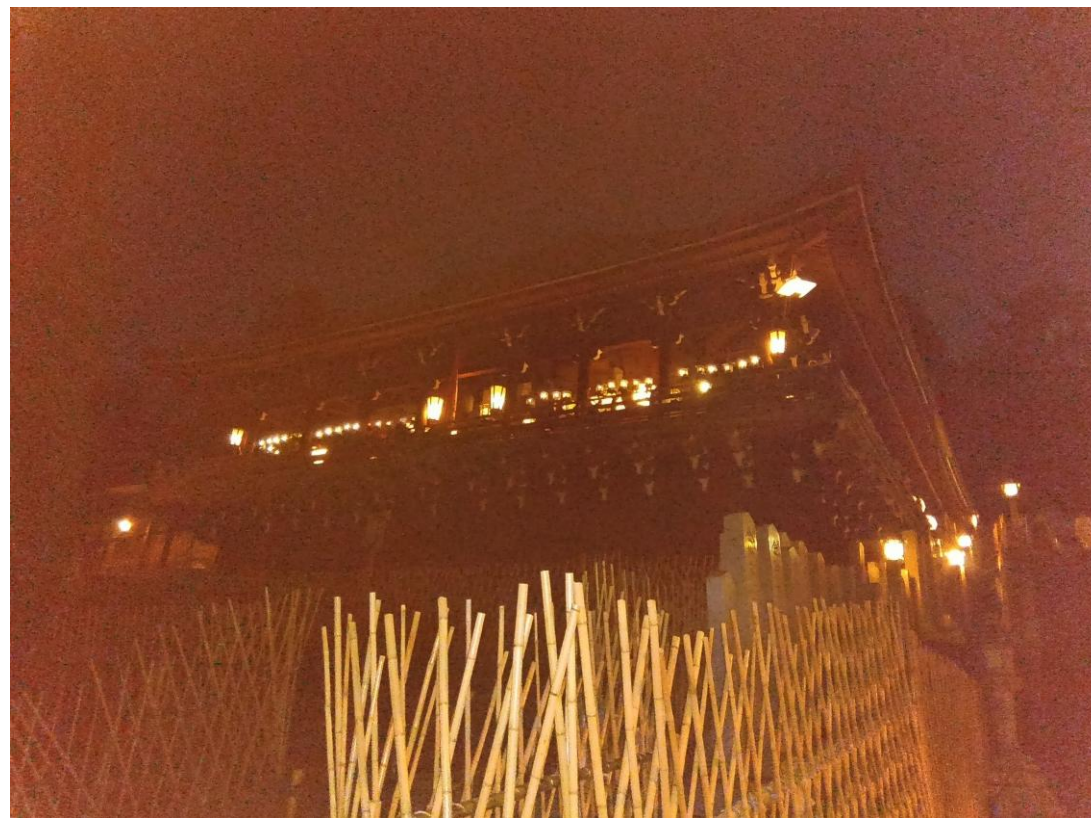
お松明最終日の3月14日は大松明10本が並ぶ「尻付け松明」が見物人を魅了

太平洋戦争とお水取り<下>

【1945年】 第1次大阪大空襲で奈良も緊迫 灯りの漏れ防止に全力



東大寺を代表する伝統行事、修二会の舞台になる二月堂。修二会は天平勝宝4年（752）以来、休みなく続く「不退の行法」



お松明最終日の「尻付け松明」が終わり、大半の見物客がいなくなった後も二月堂では法要が続いた（2025年3月14日）

【文化財疎開】 = A

1941年8月～11月

東京から奈良に宝物疎開

39年9月

ドイツがポーランド侵攻
第2次世界大戦始まる

40年9月

日独伊3国同盟調印

〃年秋～冬

ドイツがロンドン大空襲
イギリスがベルリン大空襲

41年8月

文部省「国宝史蹟等防護対策実施
要綱」作り美術品避難計画を指示



第2次世界大戦の英・独の空襲の応酬を受け、日本も東京帝室博物館の宝物を奈良に極秘に疎開させた

【文化財疎開】 = A

奈良に疎開してきた宝物とは

■ 法隆寺献納御物

主に飛鳥時代に制作された金銅仏

108点

1878（明治11）年に献納

■ 東京帝室博物館の最優秀品

仏像、墨蹟など

226点

計334点

背景に軍部の『奈良は安全』の判断



太平洋戦争開戦前の1941年秋を中心に東京帝室博物館の宝物の疎開先となった奈良帝室博物館

【文化財疎開】 = B

国宝第1収蔵庫：円照寺（現・奈良市） 国の補助で県が対応

■ 1944年3月～8月

興福寺	八部衆乾漆立像のうち五部洋、乾達婆など4 軀 木造弥勒菩薩坐像
東大寺	重源上人勧進帳 1 卷 木造伎楽面 2 面
元興寺	木造薬師如来立像
薬師寺	絹本著色吉祥天像
法華寺	絹本著色弥陀三尊及童子像 三幅
西大寺	絹本著色十二天像のうち七幅
伝香寺	木造聖観音立像
十輪院	木造不動尊及二童子 3 軀

など国宝計29点



国宝第1収蔵庫となり、多くの国宝を受け入れた円照寺

【文化財疎開】 = B

国宝第2収蔵庫：大蔵寺（現・宇陀市） 国の補助で県が対応

■ 1944年9月～10月

興福寺	木造世親菩薩立像 木造四天王立像（北円堂）のうち持国天など2軀
東大寺	西大門勅額 1面
薬師寺	木造十一面観音立像
唐招提寺	木造菩薩立像（伝大自在菩薩）
法華寺	乾漆維摩居士坐像
円成寺	木造大日如来坐像
中宮寺	木造菩薩半跏思惟像（伝如意輪観音）
朝護孫子寺	紙本著色志貴山縁起
手向山神社	木造舞楽面 16面

など国宝計16点



山間地にある大蔵寺（現・宇陀市）は国宝第2収蔵庫に

【文化財疎開】 = B

円照寺、大蔵寺以外の寺院・旧家への緊急疎開 各寺院が独自に交渉、費用は寺負担

■ 1945年7月

興福寺 八部衆乾漆立像のうち阿修羅像、迦楼羅像
木造無著菩薩立像、天燈鬼・龍燈鬼 など
→吉野町の舟知家

東大寺 四天王立像（三月堂）
→大柳生村（現・奈良市）の円成寺

法隆寺 百済観音（木造観音菩薩立像）
聖如意輪観音像（聖霊院） など
→柳生村（現・奈良市）の佃家
→矢田村（現・大和郡山市）の今西家

〃 泣仏塑像群（五重塔） など

〃 梵天像、帝釈天像（食堂）
→北倭村（現・生駒市）の長弓寺 など



阿修羅像は寄託先の奈良帝室博物館から吉野町・舟知家の土蔵に疎開

【文化財疎開】 = C

正倉院宝物を宝庫から移送

1941年10月～11月

恒例の御物曝涼（虫干し）に合わせて搬出準備の荷造り実施
荷造り総数は御物で584個、経巻が150個

43年秋

正倉院事務所（鉄筋コンクリート造）の補強改装工事完了
曝涼期間中に御物の一部を「改装事務所」（A）に搬入
奈良皇室博物館の収蔵庫（B）にも一部搬入 **移送1回目**

45年3月

東京、大阪などで空襲が続き、残りの多くを（A）（B）へ
移送2回目

同年7月

奈良市などで6月に焼夷弾空襲があり、残り全てを（A）（B）へ
移送3回目



空襲被害を避けるため1943年秋以降、正倉院正倉の宝物が正倉院改装事務所や奈良皇室博物館収蔵庫に3回に分けて移送された

第1回正倉院展

<正倉院特別展観>

1946年10月21日から20日間
14万7000人余りが観覧



第1回正倉院展が開かれた奈良皇室博物館（現・奈良国立博物館仏像館）



第1回正倉院展で展示されたササン朝ペルシャ製造とされる白瑠璃碗。戦時中、安全を期して宝庫から奈良皇室博物館収蔵庫に移送されていた

奈良の戦跡

柳本飛行場跡 (天理市柳本町など)

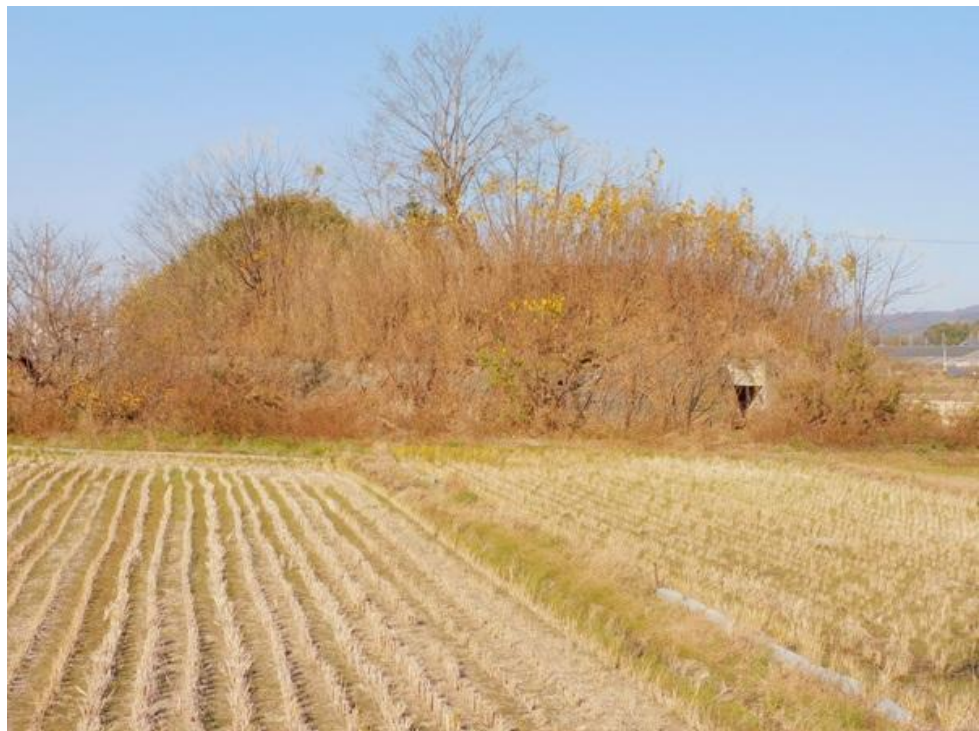
正式名称は
大和海軍航空隊大和基地



戦時中、柳本飛行場が建設されたのはJR桜井線
柳本駅から長柄駅の西側、天理市柳本町などの
約300ヘクタール (阪神甲子園球場の78個分に相当)

奈良の戦跡

柳本飛行場跡 (旧・大和海軍航空隊 大和基地)



戦闘機や練習機と交信する施設だったとみられている南側の防空壕＝天理市岸田町で



コンクリートが露出し、一部で劣化が進む北側の防空壕＝同

奈良の戦跡

柳本飛行場跡

(旧・大和海軍航空隊
大和基地)



太平洋戦争末期に軍部が進めようとした本土決戦時に天皇を迎える御座所の設置が予定されていた海軍航空隊大和基地近くの地下壕＝天理市豊田町で



終戦後の45年秋に柳本飛行場跡で米軍が撮影した零戦

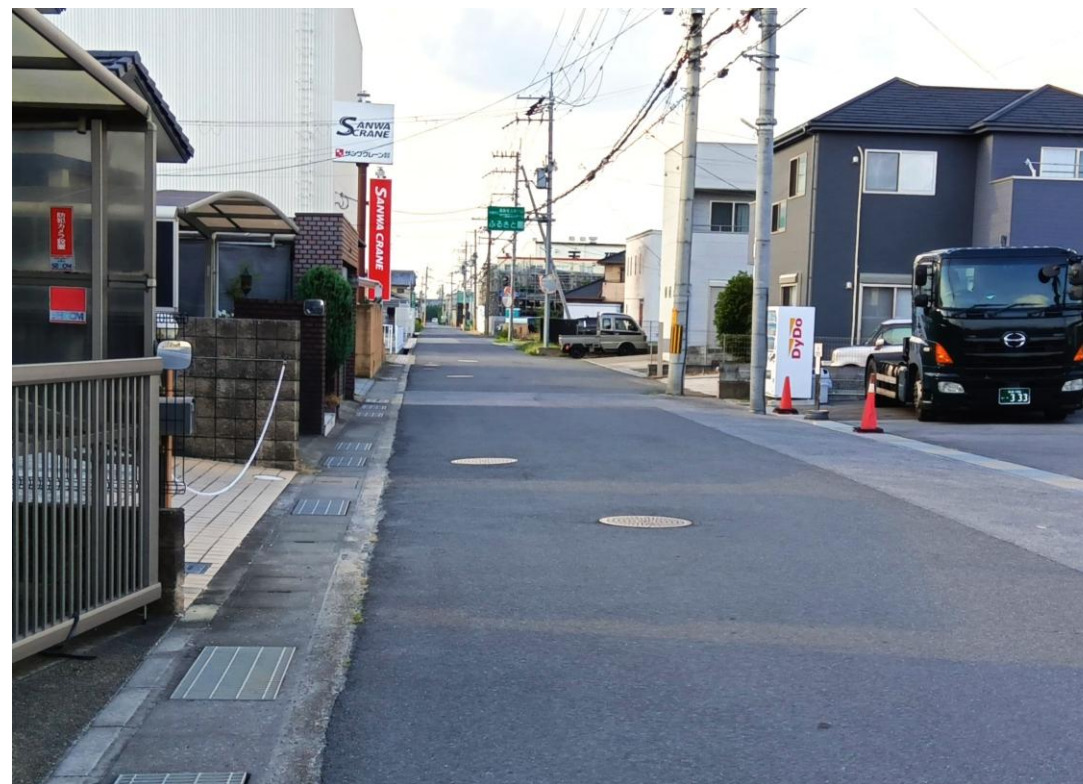
奈良の戦跡

柳本飛行場跡

(旧・大和海軍航空隊
大和基地)



柳本飛行場建設のため、44年に天理市柳本町の白堤（しろとり）神社は移転を強いられた。元の場所に石碑が建つ



天理市海知町の市道は柳本飛行場の滑走路1500mのうち約800mを利用している

奈良の戦跡

屯鶴峯地下壕 (香芝市穴虫)



陸軍の屯鶴峯地下壕はトンネルをあみだ状に掘削された。西壕、東壕の2カ所あり、共に延長約1キロ。西壕のトンネル位置図



屯鶴峯地下壕見学会が「NPO法人平和のための香芝戦争展」主催で例年11月上旬に西壕で開かれている

奈良の戦跡

屯鶴峯地下壕<西壕>



屯鶴峯地下壕の2つの壕のうち、西壕の東側出入口の2つ



地下壕の側壁上部の所々に今も残る灯り掛けの釘。赤茶色のサビが時の経過を物語る

奈良の戦跡

屯鶴峯地下壕<西壕>



地下壕は比較的柔らかい凝灰岩でできており、劣化した壁面や天井部分が落下している場所も



香芝市のNPO法人の2021年調査で屯鶴峯出入口近くで皇族用ともみられる建物跡を発見

<まとめ> 45年6月～8月の奈良は空襲被害と混乱の渦中だった

【空襲】

- 奈良でも1945年6月以降、**焼夷弾投下2件、機銃掃射80件以上**とされる
死者は40人以上、負傷者は76人以上とみられている
- 焼夷弾投下は奈良市と田原本町でB29が大阪大空襲の後に奈良に飛来して行った
- 機銃掃射は45年6月から8月まで県内各地で続いた

【文化財疎開】

- 41年8月～11月に東博の御物や館蔵優秀品計334点を奈良博に極秘に疎開
- 奈良県では国の指導で円照寺、大蔵寺を収蔵庫に指定、44年3月～11月に奈良

- 博に寄託されている国宝計45件を疎開
- 45年6月に奈良市、田原本町で焼夷弾空襲が発生。翌7月に興福寺の阿修羅像などは吉野町、法隆寺の百済観音などは柳生町などのそれぞれ旧家・寺院に緊急疎開

【戦跡】

- 44年9月から天理市に海軍が大和海軍航空隊大和基地を建設。戦争末期には本土決戦になった場合、特攻機発進の西日本の中心に位置付けられ、天皇を招く御座所の設置計画が進んでいたとされる
- 香芝市では陸軍が45年6月から屯鶴峯地下壕を掘削し、本土決戦になった場合、同地下壕に航空総軍の戦闘指令所を設置。大阪・八尾の大正飛行場から特攻機発進の指令を行う計画だったという

～京阪奈新書～

『奈良の太平洋戦争』 出版関連講演

ご清聴ありがとうございました

ございました